

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
伊予市	上吾川地区(松本、白水、六反、十合、市ノ坪、向井原、布部)	令和3年3月29日	—

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	104ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	—
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	35ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	—
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	—
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	6ha
(備考)	

2 対象地区の課題

地域住民、土地持ち非農家を含めた農地保全の体制づくりを進め、中心経営体への農地の利用集積に伴う管理作業や、高齢農家の農用地に係る管理作業を「上吾川の農業を考える連絡協議会」、「上吾川地域資源保全推進会」、「上吾川耕作放棄地管理団体」が連携して取り組む。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

地域の担い手農家の継続維持及び他地域からの担い手の参入促進に努め、上吾川地区人・農地プランに参加した担い手農家への集積に努める。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針

新規就農を促進し、地域の後継者として育成する。上吾川の農業について考えるとともに、農地の貸し手と借り手を調整するため連絡協議会を設立し、集落営農などの組織化も視野に入れ、地域全体で話し合いを進めていく。

現在営農している農地を遊休農用地化しないように努める。営農が出来なくなった土地は景観作物(コスモス等)の植栽等で地域のコミュニティの場としたり、非農家も交えて、もち米を作ったり、野菜の即売会等で収穫祭を楽しむなど、資源を活用しつつ、農地の姿を保全する。

水路、農道、ため池についての保全は、総代会が中心となり毎年5月に機能診断を実施し、有効性、緊急性等を考慮しながら、計画的に保全管理を行う。

地区外の地権者等が管理が困難なために発生した耕作放棄地対策のために「上吾川耕作放棄地管理団体」を設立し、農地の維持管理に努める。

ドローンなどのスマート農業による省力化を推進する。また、オペレーターには非農家の若者を活用し、農家と非農家の連携による共同作業を促進する。

中心経営体

属性	農業者 (氏名・名称)	現状		今後の農地の引受けの意向		
		経営作目	経営面積	経営作目	経営面積	農業を営む範囲
	A	露地野菜	23 a	露地野菜	23 a	
	B	水稻・果樹	75 a	水稻・果樹	75 a	
	C	水稻ほか	58 a	水稻ほか	58 a	
認農	D	水稻	400 a	水稻	400 a	
	E	水稻ほか	27 a	水稻ほか	27 a	
	F	水稻、野菜	100 a	水稻、野菜	100 a	
	G	水稻ほか	68 a	水稻ほか	68 a	
認農	H	水稻、野菜	90 a	水稻、野菜	90 a	
認農	I	水稻、野菜	62 a	水稻、野菜	62 a	
	J	水稻	80 a	水稻	80 a	
認農	K	水稻	378 a	水稻	378 a	
認農	L	水稻ほか	280 a	水稻ほか	280 a	
	M	稲作ほか	108 a	稲作ほか	108 a	
	N	稲作	122 a	稲作	122 a	
	O	水稻	54 a	水稻	54 a	
認農	P	水稻、野菜	78 a	水稻、野菜	78 a	
	Q	レモン	22 a	レモン	22 a	
	R	水稻	69 a	水稻	69 a	
認農	S	水稻ほか	217 a	水稻ほか	217 a	
	T	野菜	81 a	野菜	81 a	
	U	野菜	400 a	野菜	700 a	
	V	水稻、野菜	104 a	水稻、野菜	104 a	
認農	W	水稻	68 a	水稻	68 a	
認農	X	水稻、麦	100 a	水稻、麦	100 a	
	Y	水稻、野菜	86 a	水稻、野菜	86 a	
	Z	野菜	50 a	野菜	50 a	
	AA	野菜	10 a	野菜	10 a	
認就	BB	米麦、野菜	350 a	米麦、野菜	650 a	
計	28人		3560 a		4160 a	

農地の貸付け等の意向

	農地の所在(地番)	貸付け等の区分(m ²)		
		貸付け	作業委託	売渡
1	A	823		823
2	B	1113		
3	C	472		
4	D			960
	計	2408	0	1783